

# 知的障害特別支援学校における 「さわる」を取り入れた美術鑑賞の実践的研究

[本研究の目的] 「主体的に学習に取り組む態度」を養う美術鑑賞の学習の学習モデルを視覚障害教育での「触察（以下、さわる）」の手法を取り入れて検討する

[今年度の目的] ・触図・オノマトペから生まれる色彩イメージと鑑賞学習における有用性の検討  
・知的障害教育に適した評価規準の指標の検討

## [研究方法]

1. 対象：大阪教育大学附属特別支援学校中学部学習班1班・2班

2. 内容：表1・表2・表3の通り3作品で鑑賞学習を実施

表1 「コンポジション」鑑賞学習 実施内容の記録

	実施時期	主な学習内容	生徒
1回目	令和7年6月10日	好きな色で自由に着色→着色作品の鑑賞	12名
2回目	令和7年6月24日	触図で色をイメージして着色→着色作品の鑑賞	12名
3回目	令和7年7月1日	課題作品の鑑賞、Tシャツの台紙に絵をはめて鑑賞	11名

表2 「囲まれて空間A」鑑賞学習 実施内容の記録

	実施時期	主な学習内容	生徒
1回目	令和7年10月7日	触図で色をイメージして着色→着色作品の鑑賞	11名
2回目	令和7年10月14日	課題作品の鑑賞	11名

表3 「5-5」鑑賞学習 実施内容の記録

	実施時期	主な学習内容	生徒
1回目	令和7年10月21日	課題作品を鑑賞、自由に着色→着色作品の鑑賞	11名
2回目	令和7年10月28日	触図で色をイメージして着色→着色作品の鑑賞	11名

3. 手続き：撮影した動画を基に発問、発言の記録を作成した。着色作品（塗り絵）からも見方や感じ方を確認した。

1) 触図・オノマトペから生まれる色彩イメージと鑑賞学習における有用性の検討

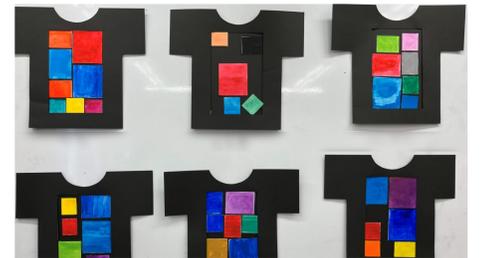
作品に応じて触図を考案し、都度振り返りながら改善点を探った。発問にオノマトペを取り入れ、生徒の表現の変容や学習との関連性を検討した。

2) 知的障害教育に適した評価規準の指標の検討

新関・松岡（2020）が示す「鑑賞学習ルーブリック」（表4）の項目で生徒の発言を分類した。昨年度の研究結果とも合わせて実態を検証した。

表4 鑑賞ルーブリック（新関・松岡，2020）

鑑賞学習ルーブリック				
コモンルーブリック				
観点	レベル4 ☆☆☆☆	レベル3 ☆☆☆	レベル2 ☆☆	レベル1 ☆
(A) 見方・感じ方	作品の主題や造形について、作品にまつわる知識や他者の見方・感じ方に刺激を受けながら、自分の見方・感じ方を分析的に表明している。	作品の主題や造形について、作品にまつわる知識や他者の見方・感じ方に刺激を受けながら、自分なりの見方・感じ方をもって説明している。	作品の主題や造形について、自分なりの印象をもっている。	作品について興味・関心をもったことを中心に、自分なりの印象をもっている。
(B) 作品の主題	作品から伝わる主題を捉えて説明している。	作品から伝わる主題について想像し、説明している。	作品から伝わる主題について想像している。	作品について興味・関心をもった部分を中心に、意味づけをしている。
(C) 造形要素とその効果	(C)-1 形、色	作品の中の形や色に込められた意味や特徴を捉えて、批評している。	作品の中の形や色に込められた意味や特徴について説明している。	作品の中の形や色の特徴を指摘している。
	(C)-2 構成・配置	作品の中の構成や配置に込められた意味や特徴を捉えて、批評している。	作品の中の構成や配置に込められた意味や特徴について説明している。	作品の中の構成や配置の特徴を指摘している。
	(C)-3 材料、技法・様式	作品の材料や技法・様式の意味や特徴を捉えて、批評している。	作品の材料や技法・様式の意味や特徴について説明している。	作品の材料や技法・様式の特徴を指摘している。
(D) 作品にまつわる知識	(D)-1 歴史的・文化的背景	作品が美術の歴史にもたらした意義や文化的価値を理解し、批評している。	作品が美術の歴史にもたらした意義や文化的価値について説明している。	作品が美術の歴史にもたらした意義や文化的価値について想像している。
	(D)-2 社会・環境とのつながり	作者の考え方や作品が社会や環境に与えた影響について理解し、批評している。	作者の考え方や作品が社会や環境に与えた影響について説明している。	作者の考え方や作品が社会や環境に与えた影響について想像している。
(E) 生き方	作者が、自分の考え方や世界への関わり方に影響を与えることを実感し、自らの生き方とつなげている。	作者が、自分の考え方や世界への関わり方に影響を与えることを実感している。	作者が、自分の考え方に影響を与えることに興味をもっている。	作者が、自分の気持ちに影響を与えることに興味をもっている。



## [結果]

1) 触図・オノマトペから生まれる色彩イメージと鑑賞学習における有用性の検討

「コンポジション」「囲まれた空間A」の鑑賞学習：

どちらも触図を活用した際の鑑賞では、生徒の発言に多種多様な具体物が表出した。また、具体物から色をイメージし着色を行っていることが確認できた。

「5-5」の鑑賞学習：

1回目は、画面上の輪郭線や色の境界から連想される具体物が多く、2回目は、触図やオノマトペから連想される具体物が多く表出した。

2) 知的障害教育に適した評価規準の指標の検討

3作品ともに鑑賞ルーブリックの3観点での学習評価は、ほとんどがレベル1または2の段階に当てはめることができた。教員の発問とともにまとめたものが表5の通りである。昨年度の実践とほぼ同様の結果であることが確認できた。

表5 「思考・判断・表現」の学習評価の結果（抜粋）

鑑賞対象	学習評価		生徒の発言 (教員の発問)
	観点	レベル	
コンポジション	(1回目) 作品	(B) 作品の主題	・(全部の色を説明して) オレンジ3兄弟やわんわん/黄緑世界
	(2回目) 触図・作品	(C)-1 形、色	・(この中で一番好きな色は) 緑と紫・推しの色
		(C)-1 形、色	・(さっきいろいろ言ってたかった) 赤紫色はパッションフルーツに似てた
囲まれた空間A	(1回目) 触図・作品	(A) 見方・感じ方	・グリーンアドベンチャーのマウンテンボールの・・・
	(2回目) 作品	(C)-1 形、色	・(何をイメージしましたか) しましまのジェットコースターみたいだった
		(C)-1 形、色	・(同じところってどこ) 赤か、赤とオレンジくらい
5-5	(1回目) 課題作品	(A) 見方・感じ方	・(触図さわってきけた) ここら辺が森で、ここが竹の子や
	(2回目) 触図・作品	(C)-1 形、色	・(触ってイメージできることある) なんかいちごのつぶつぶみたい
		(C)-1 形、色	・(どんなイメージでその色) まあ鉄球のような感じ
		(C)-3 材料・技法	・(自分のイメージとは違った) 全部ペンで描いてるとこ
	(2回目) 触図・作品	(A) 見方・感じ方	・(色が) 巻き込まれている
		(C)-1 形、色	・(濃さの加減が) 違ったり似たりしている
(C)-1 形、色		・(塗ったところある) 色がだいたい5塗う/一切擦らないでいい	
5-5	(1回目) 課題作品	(A) 見方・感じ方	・(気付いたことを言いました) モグラみたいになってる/顔がウルトラマンみたい (何か言ってる) 君たちは偉いぞって
	(2回目) 触図・作品	(B) 作品の主題	・(1か月に何か・・・) 5対5やから丸が2つあるんちゃう
		(C)-1 形、色	・(言いたいことあったら手を上げて) ちょうちよと言うか朝りばしの片方やる
		(C)-1 形、色	・(1か月に何か・・・) オレンジと赤がこうやって音楽 (曲をドンドン叩く)
	(2回目) 触図・作品	(A) 見方・感じ方	・(ツルツルから何を思い浮かべた) 野球のフェンスみたいなのさうい
		(C)-1 形、色	・(オノマトペで言ったら) ギザギザ/モアモア/えっとねジョリジョリ
(C)-1 形、色		・(じゃあギザギザしているものは何) アイスクリームのなんやっけカップ (じゃあサラサラしているものは何) 砂 (砂の色は) 肌色 (ザラザラって何) ラム貝殻 (貝殻の色は) 緑色 (触った感じは) ザラザラ (ザラザラ) 家の階段こんな感じから	

## [考察]

1) 触図・オノマトペから生まれる色彩イメージと鑑賞学習における有用性の検討

- ・鑑賞順序の入れ替えをした場合でも、発言に具体物が多く見られ、触図が想起する手掛かりになっていることは検証できたと考えられる。
- ・オノマトペが触覚情報に集中させるための有効な手立てとなっており、触図との併用で発想が一段と拡張されることも示唆できた。

2) 知的障害教育に適した評価規準の指標の検討

- ・今年度の実践結果と昨年度までの結果がほぼ同様であったことから、おおよその中学部段階のレベルとして見る事ができる。
- ・これまでの実践を踏まえて、評価基準の新たな指標として「支援度」「非言語的表現」「表現への反映」の3つを提案する。